

「緑蔭秋の茶話会 (10月18日実施)」

# 竹の茶室で和みの一服

京都岡本  
記念病院

## 臨床僧が傾聴ボラ活動

「地域がん診療病院」の久御山町佐山の京都岡本記念病院で、緩和治療病床のがん患者を中心とした人々の心のケアに向け、僧侶らが傾聴ボランティア活動を続けている。

「臨床僧の会・サーラ」(長岡京市)が取り組む茶会「緑蔭」で、取り組みの紹介を兼ねた茶話会を催した。

緑蔭は同病院の緩和治療棟で定期開催している。僧侶がお茶を振る舞い、医療者でも家族でもない立場で来席者の話を聞き、心のケアを下さえる。活動を広く知ってもらお

うと、このほど地域住民も足を運びやすい1階エントランスを会場に、規模を拡大して行った。

竹で組んだ茶室「帰庵」をしつらえ、抹茶席と煎茶席を開席。入院・通院患者やお見舞いの来院者などが訪れ、僧侶が茶せんで抹茶を点てたり、煎茶を淹れたりし、人々の話に耳を傾けた。

サーラ代表で、京都市上京区の法輪寺(達磨寺)の佐野泰典住職(55)は、お茶は和やかに合わさる「和合」の精神と説く。「心の空白、寂しさを聞き、

こんな考えもあると寄り添えたら。日常のゆとりがなくなる中、ゆ

ったりとした時間を過ごしてもらいたい」と話した。

緑蔭は毎週木曜日の午後。問い合わせは同病院がん相談支援センター ☎46・5981まで。



竹組の風流な「帰庵」もしつらえられた茶話会